

令和5年度第1回史跡根城跡整備活用検討委員会 議事要旨

日時 : 令和5年8月30日(水) 10:00~12:00

場所 : 八戸市博物館 2F 体験学習室

委員

出席6名 工藤竹久委員長 北野博司副委員長 石橋充志委員
熊谷隆次委員 倉原宗孝委員 宮野則彦委員

指導・助言

岩田安之文化財保護主幹(青森県教育委員会文化財保護課)

事務局

八戸市教育委員会 八木田教育部長 鈴木教育部次長兼教育総務課長
社会教育課 出町主事
博物館 小保内館長 佐々木副館長 市川主査 中村専門員

次第

1. 開会
2. 会議
 - (1) 令和4年度事業報告及び令和5年度事業計画
 - (2) 史跡根城跡本丸主殿改修について
 - (3) その他
3. 閉会

会議資料

八戸市史跡根城跡整備活用検討委員会 委員名簿
八戸市史跡根城跡整備活用検討委員会 席図
八戸市博物館条例抜粋・八戸市史跡根城跡整備活用検討委員会規則
別紙1 令和4年度事業報告及び令和5年度事業計画
別紙2 史跡根城跡本丸主殿改修について

(1) 令和4年度事業報告及び令和5年度事業計画

1. 令和4年度事業報告 A. 本丸復原建物改修工事

- 北野副委員長：これまでの工事で行った長寿命化対策について教えてください。
また、工事後のメンテナンスに関する取り組みがあるようなら教えてください。
- ◎事務局：まず、復原建物の長寿命化対策についてです。第二次整備が始まって以降、特に木工事を中心に様々な長寿命化対策を行っています。建物により、対応は異なりますが、例えば掘立柱建物は柱の地際部分に銅板を巻き、柱脚部の腐朽対策をしています。また、二年前に行った中馬屋の屋根替え工事では、見え隠れにルーフィングや構造用合板を入れるなどの工法変更をしました。他に、納屋3と呼んでいる竪穴建物では、宮野先生にご指導をいただきながら工法を変更しました。三和土の下面の土中にセメント改良土を入れ、外部からの湿気を遮断するようにしました。
- 次にメンテナンス・点検の有無についてです。メンテナンス・点検はマニュアル化していません。現在は広場職員や事務局職員が、巡回時に気づいたところを経過観察し、状態が悪化したら自力で修繕するという対応をとっています。
- 北野副委員長：わかりました。点検・メンテナンス計画の作成や予算化についても検討してみてください。
- それと木材の腐朽対策ですが、寒冷地は水分の凍結作用があって、傷みが早いという独特の事情があります。例えば地元の方々にも入っていただいて、冬場には菰をかけて雪囲いをするとかのこともできると思います。他の県の事例になりますが、冬の期間だけ建物にビニールを巻いて温度と水分をカットするなどの試みを実験的に行っているところもあります。根城は通年で公開していますし、全ての建物にお客さんが入れるようになっているので、ちょっと違うのかもしれませんが、なにか簡便な方法で、冬期間の建物を守ることもできるのかもしれないので、実験的でも構いませんので、根城発信のメンテナンスのようなことも検討してみてください。それと以前の会議でも話題に上がりましたが、データロガーを置いて、温湿度の変化を測定することも必要だと思います。
- ◎事務局：わかりました。検討します。
- 宮野委員：工事が完了していない納屋3についてうかがいたいです。会議資料10ページの写真では、柱の周りに何もしていません。これは今後どのような処置をする予定なのでしょう。
- 事務局：次年度の工事では、柱下端の腐朽部分を切断し、新材を根継する予定です。また根継部分をボルト締めしたあと、柱下端に防水・防湿シートを巻き、その上に銅板を巻き、埋め戻すという手順を想定しています。

○宮野委員：わかりました。市販の防水シートですが、水分は通さないけれど、湿気は通すというものもあります。シートを入れる場合は、必ず防水・防湿シートをいれるようにお願いします。

◎事務局：承知しました。

○工藤委員長：史跡整備が一段落したら報告書作成が必要です。当初工事ではどのような工事をしたのか、そしてそれをどう評価し次の工事に繋げたのかという記録と報告が必要です。次の世代に根城を引き渡していくためにも、報告書作成を念頭に入れながら作業を進めてください。

◎事務局：承知しました。

2 a. 令和4年度事業報告 E. 本丸主殿耐震診断

○倉原委員：資料では、震度5弱以上の地震があった場合、東西方向の損傷が発生する可能性があるということでした。これは建物の形状に拠るのでしょうか。

◎事務局：単純に壁量の問題です。東西方向の壁は殆ど建具なので、柱だけが耐力要素としてみられています。一方南北方向は比較的板壁が多いので、柱の他に板壁も耐力要素としてみられています。このような状況なので、東西方向が弱く、損傷の可能性があるという診断結果になりました。

○倉原委員：わかりました。

2 b. 令和4年度事業報告 J. 本丸大銀杏樹根調査

○北野副委員長：今後銀杏の治療を行う際は、市民活動にすることを検討していただきたいです、市民に史跡への愛着を持ってもらうためにも、ぜひお願いします。

◎事務局：承知しました。調査をお願いした八戸市森林組合からは、数年の時間をかけ、段階的に土壌を改良していく必要があるというご意見をいただいています。例えば治療の初年度は森林組合と広場・事務局職員で作業するにしても、二年目以降は市民の方にも入っていただくことを考えていきたいです。

2 c. 令和4年度事業報告 N. SNSによる広場情報発信

○倉原委員：閲覧者数が前年度から比べ大きく増えています。これはなぜでしょうか。

◎事務局：SNSの利用状況の分析は今年から始めました。今後、継続的に記録をとっていくことで、傾向や改善点が分かってくると思います。

SNSの閲覧者増についてですが、これは単純にコロナを取り巻く環境の変化だと評価しています。令和3年度はコロナの真ただ中でしたが、令和4年度は市民の皆さ

んの中に少しずつ外に出ようという雰囲気生まれた年だったと思います。このような変化からイベントのチェックが多くあり、閲覧者数も伸びたと分析しています。

○宮野委員：広場で行っているイベントの参加者数が少ないように感じました。SNSを使って、参加者が増えるような投稿をしていくべきではないでしょうか。

◎事務局：承知しました。因みに、昨年度まではコロナという縛りもありましたので、イベント定員の上限人数を減らしていました。今年からはその縛りも無くなりますので、実数は上がると予想されます。

3. 令和5年度事業計画 K. 旧八戸城東門改修工事

○北野副委員長：屋根破損の原因はわかっているのでしょうか。

◎事務局：破損の内容は、屋根に二か所の穴が開き、野地板などが露出するというものですが、原因は不明です。周辺状況から考えると、周辺の高木の落枝や、いたずらによる投石などが考えられますが、特定はできませんでした。

ただ、この破損が無かったとしても、屋根の桎板自体が相当老朽していました。遅かれ早かれ屋根の葺き替えは必要だったと思います

○北野副委員長：わかりました。経年劣化はどうしてもありますからね。

この門は市の指定文化財ですから、当然改修に先立ち、市の文化財審議会でも議論があったと思います。長寿命化を検討するのは結構ですが、その方法が銅板葺きというのは少し残念な気もしました。今後のことを考えると、誤解を受けないように、この門はもともと板葺きだったけれど、長寿命化のために銅板にしましたという周知をサインなどでしていく必要がありそうですね。

○倉原委員：板屋根から銅板屋根に変えるという決断をする際に、一定の検討は行われたのでしょうか。

◎事務局：様々な検討をしました。葺き材だけでも板葺・トタン葺き・銅板葺き、葺き方にしても長尺横葺き・菱葺きなど、さまざまな案の長短を比較しました。また、近隣地区の文化財になっている門の当初葺き材と現状葺き材についても調査し、その動向を調べました。結果当初は草葺きや板葺きだった門の八割五分程度は、トタン葺きないし銅板葺きになっているということが明らかになりました。やはり北国では自然材料の屋根葺き材の維持は難しく、現代材料に置き換えざるを得ないという状況のようです。また、市の文化財審議委員会でも、板葺き案・トタン葺き案・銅板葺き案を提示し、それぞれの長短を説明し、検討をしていただきました。

○倉原委員：文化財審議委員会では満場一致で銅板葺き案が採用されたのでしょうか。

◎事務局：板葺きを残せるなら残したいけれどね、という意見が出たとうか

がっています。ただ、最終的には板葺き屋根の耐用年数の短さが決め手となり、銅板葺きへの改修が承認されました。

旧八戸城東門の周辺の樹木は高木化しており、日陰を作っています。板葺き屋根に日が当たらないと湿潤状態が続きますので、部材の老朽が速くなります。旧八戸城東門は平成18年にも屋根葺き替え工事を行っていますが、20年持たないペースで屋根板がボロボロになりました。対費用効果を考えると、板葺き屋根を維持することは難しいという結論になりました。

○北野副委員長：文化財的な視点で言うと、なにを本質的な価値と位置付けるかですよね。板葺きが本質的な価値であるということなら、これは維持しなければいけないでしょう。他に特徴的な工法なり歴史なりがあって、それを本質的な価値と位置付けるのなら、建物の長寿命化のために板葺きから銅板葺きに変えましたと説明しても問題ないと思います。そのあたりのこともきちんと位置付ける必要がありますよね。

○工藤委員長：あの門は、今の位置に移築される前に一度鉄板葺きになっていますよね。

◎事務局：おっしゃる通りです。旧八戸城東門は、近世段階に現在の市街地、つまり八戸城の城内に作られました。これが近代のいずれかの段階に、根城本丸の近くに移築され、さらに平成五年に現在位置に移築されました。

平成五年に本丸の整備工事が本格したことに合わせ、旧八戸城東門の移築と解体修理、そして建物の調査と市文化財指定が行われました。同年の工事に合わせ収集された史料を分析すると、平成五年段階の旧八戸城菱門はトタン葺きでした。因みに旧八戸城東門が根城に移築される以前の古写真も発見されていますが、これは板葺き屋根でした。つまり、旧八戸城東門の屋根は、竣工投書は板葺きでしたが、根城に移築された段階でトタン葺きに改修され、さらに平成五年の移築時に古写真を参考に板葺きに再改修され現在に至った建物だということが分かりました。当館が記録を持っている平成五年の工事の段階で、既に何度も移築と屋根改修が行われており、板葺き屋根の当初仕様の情報は既に失われていたという状況になります。

○北野副委員長：わかりました。板葺き屋根ではあったけれど、平成5年文化財指定時には、すでに当初の情報は失われていたということですね。平成5年の市文化財指定時の価値づけをもう一度確認した方が良いと思います。

◎事務局：承知しました。

あの旧八戸城東門はなかなか難しい建物です。実はあの門は中世根城の門で、それを転用して旧八戸城東門に転用したという伝承があります。これは伝承に過ぎないのですが、この言い伝えの存在もあって、昭和のいずれかの段階に市街地から根城

に移築されたようです。

○工藤委員長：そうですね。なかなか難しい門です。そのあたりの経緯についても記録を残すようにしてください。

◎事務局：承知しました。今回の改修工事に合わせ、これまでの研究史・工事歴をまとめ、当館の紀要に調査報告を出す予定です。この機会に、さまざまな経緯を記録しておきたいと考えています。

○工藤委員長：そうですね。ぜひお願いします。

(2) 史跡根城跡本丸主殿改修について

1. 概要 工程

○北野副委員長：第2表のスケジュール案についてです。令和10年度の公開を目指し、事業を進めていくというお話しでしたが、終盤は色々な作業がタイトになっていくと思います。

例えばDの本丸解説板改修や、Eの改修内容周知に関する原稿作成は、もっと前倒しでやっていく方が現実的だと思います。特にEの改修内容周知ですが、ボランティアガイドさんにレクチャーをするとすると、時間をかけてやっていく必要があるでしょう。令和8年には工事が始まるそうなので、その頃には改修の内容も固まっていると思います。DやEはもう少し早く始めても良いのではないのでしょうか。

◎事務局：再検討します。

2 a. これまでの検討内容 (2) 本丸の空間構成

○倉原委員：専門家会議での検討の結果、当初復原での空間想定は妥当性が高いというお話しでしたが、これは推論を多く含むものなのではないでしょうか。

◎事務局：例えば、建物名称や部屋名称は史資料で全てを特定できるわけではありませんので、そこは推論になります。ただし、空間構成の骨子になるような、門の性格や、表や奥などの空間構成などの考え方については、史資料が十分にありますので、解釈の変更は必要ないという評価が得られています。

○北野副委員長：本丸内が表と奥になるというのはわかりますが、奥のさらに南に竪穴の「工房」や「鍛冶工房」があるという景観は少し変わっていますよね。当主のプライベート空間のすぐそばに、塀も何もない状態で職人たちの作業空間があるということについて、見学者の方なんかにはどのように説明しているのでしょうか。

◎事務局：本丸は当主とその家族だけが居る閉鎖的な空間だったのではなく、下級の家臣や職人らも出入りするような開かれた空間だったようだと解説をしています。ただ、ここでいう鍛冶工房なんかは、普通の職人が出入りする町の工房ではな

くって、根城南部家が持っている優品の武器や什器を修繕するような特殊な工房であることが出土遺物からわかっています。このように根城本丸は領主と職人など、領民との距離が比較的近い状況だったようです。そして、それが中世根城の特徴の一つなのだと考えています。

○北野副委員長：近世的な感覚で言うところとちょっとあり得ないんですが、それが根城の特徴なのですね。

◎事務局：そう理解していただいて結構です。中世後期段階にもなると、全国の多くの地域で大名が生まれ、特定個人への集権が進みます。ただ、糠部は大名が居ない社会だったということもあり、領主と家臣、領主と領民の距離が近い社会だったようです。現時点の研究状況では、そのような社会状況が遺構・遺物に反映されていると理解されています。

○工藤委員長：当初復原時にも、その話題はありました。御殿と工房の間には塀があったらと考え、遺構を探しましたが、柵と断定できるような遺構はあまりありませんでした。

○北野副委員長：わからないものを作るわけにはいきませんからね。むしろその変わっている点が特色だと評価して、紹介していくことに意味があると思います。

○工藤委員長：事務局からも説明していただきましたが、基本的には住宅系の大型掘立柱建物のすぐそばで堅穴建物が出てきます。根城に限らず、他のお城でもこういう状況なので、これが北東北の中世の城館の特徴なのでしょう。今回の改修で解説も更新すると思いますが、このあたりのことについても丁寧に解説をしていただけると嬉しいです。

◎事務局：承知しました。

2. これまでの検討内容 (3) 主殿見学動線とゾーニング

○宮野委員：雪隠についてです。私、こういう古い建物や遺跡の復原をしているところを見に行くと、どこにトイレがあるのかが気になって探してしまいます。それぞれの時代の人たちがどんな雪隠を使っていたのかってところに興味があって、気にしてしまうのです。

先ほどのお話だと、この時代には雪隠という部屋は無かったので、改修後この部屋は無くし、管理用の倉庫として使うという考えなのでしょうか。

◎事務局：その通りです。主殿を描いた絵図は様々ございますが、いずれにも雪隠はございません。トイレの為だけに独立した部屋を設けるということはしていないようです。

○宮野委員：なるほど。では、現在は雪隠という部屋名を付けているけれど、そ

の部屋名自体を無くしてしまうということですね。

もし可能なら、主殿という建物には雪隠という部屋は無かったという紹介もしていただきたいです。そういうことが気になる方もいらっしゃると思います。

◎事務局：実際、現在の雪隠は、展示の中でも人気スポットになっています。歴史好きの方や子供たちは、どのように用を足していたのかという話題に興味があるようで、面白がって解説を聞いてくださいます。

○宮野委員：生活に必要な施設ですからね。当時はどうしていたのだろうかという疑問は当然気になると思います。儀式みたいなきれいな部分だけでなく、そういうところの解説もしていただけるとより良いと思います。

◎事務局：承知しました。

部屋名に関しては今後検討しますが、専門家会議では、全ての部屋に無理に部屋名を付けなくても良いのではないかというご意見をいただいています。実際絵図などを見ると部屋名が無い場合も多くあります。また、「六間」や「十二畳」のように、ただ部屋の大きさだけで呼んでいる事例も多くあります。無理に変な部屋名を付け、部屋の性格を特定してしまうと、来場者の方に余計なイメージを与えてしまう危険性もあります。このあたりのことについては慎重に検討をしたいと思います。

2b. これまでの検討内容 (4) 各部屋の序列

○工藤委員長：主殿内の部屋の序列については、解釈を変更するという説明でした。熊谷先生もこのワーキング会議に参加されていますが、ここまでの検討について、何かご意見ございますでしょうか。

○熊谷委員：私もこの会議に参加していますが、新しい資料も多く使われていますし、先生方の議論の質も高く、有意義な会議になっていると感じています。会議の度に新しいことが沢山わかり、とても感心しています。

ただ、建物に関していえば、例えば床の高さを変えるなんてことはできません。今ある建物を活かしながら、新しい研究成果を反映していくという難しさはありますが、これもなんとかできるのではないかと考えています。

○工藤委員長：わかりました。

中世の儀式に参加した客人の動線上に、階を設けるというお話しでしたが、入口部分の建具は変更するのでしょうか。

◎事務局：根拠となる史資料が無いので、何とも言えません。関東以南の現存主殿では入口部分の屋根に唐破風があるので、見ただけでそこが入口だとわかります。根城の場合、発掘資料だけではそこまで言えませんし、文書史料中にも適当な記述はありません。

○工藤委員長：わかりました。何か差があった方が、そこが出入り口だということが伝わりやすくなると思います。検討してみてください。

◎事務局：承知しました。

(3) その他

事業進捗・整備内容の周知

○石橋委員：先ほどご説明されていた主殿改修の検討成果などについても、我々地元人間でもわかる内容で、周知をしていただきたいです。

より検討が進んだ段階で結構です。解釈の変更や、展示の変更などについて、説明をしていただく機会を設けていただきたいなと思いました。

それと町内会でも、史跡の価値を見直すという意味も込めて、根城のマップ作りなどのこともしています。地域の住民が史跡に足を運び、史跡を中心とした地域づくりを行っていきたいと考えています、今後ともよろしくお願いします。

○工藤委員長：ありがとうございます。研究成果や整備事業の進捗報告など、折に触れ地元の皆さんに紹介する機会を設けていただきたいと思います。

◎事務局：承知しました。

次回会議

◎事務局：次回会議は令和6年2月2日を予定しております。

以上